

第3章  
資料5 衛生害虫

	媒介する病原体	特記事項	防除
ハエ	O-157、赤痢アメーバなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫をウジと呼ぶ</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウジの防除が基本となる</li> <li>・ウジの防除法：通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる</li> <li>・ウジ・ボウフラの防除：毒性の問題から、有機塩素系の中ではオルトジクロベンゼンのみ使用されている</li> </ul>
蚊	日本脳炎、マラリア、黄熱、デング熱など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫をボウフラと呼ぶ</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボウフラの防除：水系に殺虫剤を投入する</li> <li>・成虫の防除：医薬部外品の殺虫剤（蚊取り線香、エアゾール等）を使用</li> <li>・蚊取り線香：線香にピレスロイド系成分が練り込まれている</li> <li>・虫よけスプレー：ディートを含むものが多い</li> </ul>
ゴキブリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サルモネラ菌、ブドウ球菌、O-157大腸菌など</li> <li>・アメーバ赤痢等の中間宿主</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・燻蒸処理：3週間位後にもう一度燻蒸処理を行い、孵化した幼虫を駆除する</li> <li>→ゴキブリの卵は医薬品の成分が浸透しない殻で覆われており殺虫効果を示さないため</li> </ul>
シラミ	リケッチア（日本紅斑熱や発疹チフス等の病原細菌）など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吸血箇所に激しい痒み</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェントリン配合のシャンプーやてんか粉が用いられる</li> <li>・フェントリンは殺虫成分で唯一人体に直接適用される</li> <li>→シラミの刺咬による痒みや腫れ等の症状を和らげる作用はない</li> </ul>
トコジラミ	ペスト、再帰熱、発疹チフスなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラミの一種でなくカメムシ目に属する</li> <li>・別名ナンキンムシ</li> <li>・刺されると激しい痒痛</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハエ、蚊、ゴキブリと同様な殺虫剤が使用されるが、体長が比較的大きい（成虫で約8mm）ので、電気掃除機で隅々まで丁寧に吸引することによる駆除も可能である</li> </ul>